

# わが家の地震対策

地震は、なんの前ぶれもなく、突然やってきます。いつ大地震が発生しても、被害を最小限に食い止められるように、家の内外に危険個所がないかをチェックし、事前に安全対策をしておきましょう。

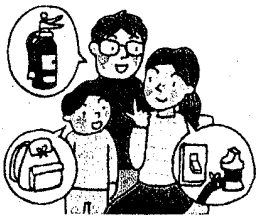
## 家族で防災会議を開こう

月に一回程度は家族そろって防災会議を開き、実際に地震が発生したときを想定して、災害から身を守る方法を話し合っておきましょう。非常持出品や防災用具の点検も定期的に行うことが大切です。

### 防災会議のテーマ

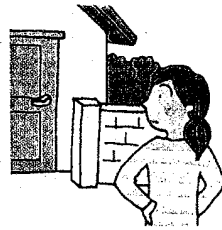
#### 家族一人ひとりの役割分担を決める

- 日常の防災対策の役割と、災害発生時の役割を決めておきます。
- 高齢者や乳幼児、妊婦等がいる家庭では、保護担当者を決めましょう。



#### 危険個所をチェックする

- 家の内外に危険個所がないかどうかチェックします。
- 危ない場所は、修理や補強について話し合います。



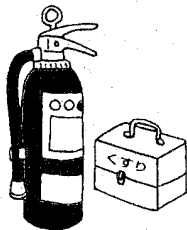
#### 非常持出品をチェックする

- 必要な品がそろっているか確認します。
- 定期的に保存状態や賞味期限を点検し、必要なら交換します。



#### 防災用具をチェックする

- 消火器や救急箱の置き場を確認します。
- 消火器の使い方、応急手当ての方法を覚えておきましょう。



#### 連絡方法を確認する

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法を話し合います。
- 災害用伝言ダイヤル「171」の使い方を確認。また、災害地以外に住む親せきや知人を中継地点にして連絡をとるのも有効な手段です。



#### 避難経路を確認する

- 地域の避難場所を確認します。避難経路は、一つではなく、複数決めておきましょう。
- できれば休日などを利用して家族で避難経路などの下見をしましょう。



### 耐震診断を受けましょう

阪神・淡路大震災の死者の約8割が、家屋の倒壊や家具の転倒による圧迫・窒息死でした。新潟県中越地震でも、古い木造住宅を中心に多くの家屋が倒壊し、死傷者が出ました。これらの地震を教訓にして、まずは住んでいる家屋の耐震性能を確認しましょう。福山市においても、耐震相談等を行っておりますので、活用して地震に強い家を作りましょう。

